



衛研だより

No. 134

名古屋市衛生研究所
2024/6

— 所長に就任して —

所長 松本 光弘

令和6年4月1日より衛生研究所長を拝命しました松本光弘と申します。私は大学卒業後14年間臨床医として、その後健康福祉局、保健センターにおいて公衆衛生医師として働いてきました。今までは感染症発生动向調査や行政処分の根拠となる検査などでお世話になっていた衛生研究所で、今後は「市民の健康を守るための科学的・技術的拠点として、感染症対策・食品・生活環境などの分野で検査業務や調査研究を行う」側の長となり、その重責に身の引き締まる思いです。

当研究所は、大正13（1924）年5月市立城東病院内に「名古屋市立衛生試験所」として開設されてから100年、昭和19（1944）年7月に「名古屋市衛生研究所」と改称されてから80年の歴史をもつ研究所です。現在2課（管理課、業務課）4部（疫学情報部、微生物部、食品部、生活環境部）から構成され、試験検査、調査研究、研修指導、情報発信といった業務に日々あたっています。

さて、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）については、当研究所も令和2年2月、名古屋市で初めて患者が確認されて以来、新型コロナが5類移行となるまでの3年間以上にわたり、この未曾有の事態に対応してきました。

国はこの新型コロナ対応を受け、令和4年に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律」を成立させ、さらに令和5年に地域保健法に定める「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」を改正しました。そこでは衛生研究所の担う役割は今後の感染症危機に備えた健康危機対処への取り組みが主軸となっており、令和6年3月に策定された「名古屋市感染症予防計画」の実行性を担保するため、今年度中に策定する「健康危機対処計画」の中でも、当研究所には「有事を想定した所内体

制づくり」「関係部署、関係機関との連携」「人材の確保と育成」「検査実施体制の確保」「情報の収集と発信」などが求められています。

検査、物資調達、移送、情報提供といった各課・各部個別の役割分担もさることながら、新興・再興感染症に迅速に対応するためには、所内一丸となった実施体制は不可欠であり、平時から各課・各部間の垣根が低い、「協力的な職場」づくりを目指したいと考えています。

当研究所では、玄関ホールに「基本理念及び方針」を掲げています。最後に、それをご紹介します。筆を置きたいと思います。

当研究所では、玄関ホールに「基本理念及び方針」を掲げています。最後に、それをご紹介します。筆を置きたいと思います。

- ① 高水準の設備・技術と徹底した精度管理のもと、迅速かつ的確に検査を行い、市民の皆様の命と健康を守ります。
- ② 感染症対策、食品衛生、環境衛生についての様々な調査研究に取り組み、市民の皆様の健康に関する施策に反映します。
- ③ 健康に関するさまざまな情報を収集・解析し、市民の皆様に提供します。

今回経験した新型コロナのように、今までにない新たな感染症が将来発生しないとは言えません。市民の命と健康を守るための科学的・技術的拠点としての役割を果たすとともに、市民に身近な研究所を目指して努力していきますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



— 大野生活環境部長の共著論文が日本食品衛生学会論文賞を受賞 —

令和5年10月12日（木）～13日（金）に東京都で開催された第119回日本食品衛生学会学術講演会において、本学会が発行する論文誌「食品衛生学雑誌」に令和4年度掲載された論文の中で特に優秀と認められた3報について表彰式が行われました。このうち、大野生活環境部長が共著者として参画した「合成樹脂製の器具・容器包装における溶出試験の精度の検証」が論文賞を受賞しました。本論文は、不確定要素が多く、これまで実施が困難と考えられてきた合成樹脂製の器具・容器包装における溶出試験全体の精度の把握を試みたものであり、得られた膨大なデータから精度の差異の原因を明らかにし、将来の溶出試験の改良に非常に価値のある情報を提供している点が高く評価されました。（食品部 谷口 賢）

— 令和5年度地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部衛生化学部会の開催 —

令和6年2月8日（木）～9日（金）、令和5年度東海・北陸支部衛生化学部会が石川県保健環境センターの主催により金沢市において開催されました。本部会は、新型コロナウイルス感染症の流行によって令和2年度から4年度まで書面またはWeb形式の開催を余儀なくされてきましたが、今回は4年ぶりの集合形式の開催となりました。しかしながら、1月1日（月）に発生した能登半島地震の被災者のご心痛等を鑑み、8日夜に予定されていた情報交換会は中止となりました。

8日の研究発表では、食品衛生分野の7題の発表がありました。本市からは生活環境部長大野が「各種ミネラルウォーター類におけるシアン試験法の測定条件の検討と妥当性確認」について発表しました。9日のフリートークでは、「検査担当者の化学物質からの防護について」、「安全性審査済みの遺伝子組換え食品の検査について」、「食品添加物分析法の妥当性確認について」の3題が取り上げられました。いずれも衛生化学分野の日常業務に直結したテーマであり、各機関の現状が報告されるとともに活発な議論が行われました。また特別講演では、「偽装医薬品の脅威と課題」と題して金沢大学吉田直子准教授の講演があり、偽装医薬品の不適正流通や不適正使用等の現状と対策について詳細な説明を聴講しました。最後に、次期開催地の三重県保健環境研究所から、令和6年度は近鉄四日市駅周辺で集合形式の開催を予定している旨の報告がありました。

（生活環境部 大野 浩之）

— 令和5年度名古屋市感染症発生動向調査懇談会の開催 —

令和5年度名古屋市感染症発生動向調査懇談会を令和6年2月19日（月）、当研究所大研修室において4年ぶりに対面で開催いたしました。

この懇談会は、本市内全域の感染症情報の収集、分析の効果的かつ効率的な運用に関する有識者の意見を聴取し、本市の感染症の予防対策に資するため設置されており、医療機関の代表者、感染症予防対策に関し学識経験を有する者、関係行政機関の職員で構成されています。

懇談会では令和5年における1～5類全数把握感染症・定点把握感染症の発生動向、病原体検出状況等を各担当部長から説明いたしました。委員の先生方からは医療現場での経験に基づく貴重な意見を多数いただき、活発な議論がなされました。（疫学情報部 内田 利光）

— 令和5年度地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部微生物部会の開催 —

地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部微生物部会は、コロナ禍後初めての対面開催となりました。過去の慣例に倣い3月第一木・金曜日である令和6年3月7日（木）～8日（金）にかけルブラ王山にて名古屋市衛生研究所主催で開催しました。部会には、愛知、岐阜、三重、石川、富山、福井各県、中核市の岐阜、金沢両市、開催地である名古屋市、各自治体の衛生研究所から、48名の参加があり、活発な議論がなされました。

初日には、微生物全体に係る演題を合同部会として開催し、3演題および、特別講演として「国を挙げて広域食中毒対策を策定するモデル」となった富山県発の広域事例において具体的な検査対応を紹介してもらい、各自治体において他自治体にまたがる食中毒をはじめ広域大規模感染症事例への対応の仕方を参加者一同共有しました。

その後、細菌、ウイルス各々分科会に分かれ細菌が10演題、ウイルス9演題発表、討論が行われました。初日

終了後、対面開催ならではの情報交換会を開催し、緊密な情報交換を行うことができました。2日目は細菌8演題、ウイルス10演題と多数の発表があり、熱心な議論が行われました。

今回の開催により、各自治体の衛生研究所が連携して、調査・検査に当たらなければならない大規模感染症に対して、情報交換会、対面開催というお互いの顔が見える関係を築くことができ連携しての調査・検査に大変有意義な会となりました。
(微生物部 柴田 伸一郎)

— 第10回 衛生研究所所内研究発表会の開催 —

令和6年3月14日(木)に所内研究発表会を当研究所大研修室で開催いたしました。参加者の聴講について、所内外の職員の方に会場でご参加いただいた他、「庁内(市役所内専用)Web会議システム」を活用したハイブリッド型といたしました。

発表会では、各部署で取り組まれている業務内容の紹介や研究成果の説明など計4演題の発表があり、それぞれについて活発な質疑応答が行われました。演題名と発表者名は以下のとおりです。当研究所の業務について、所内職員間で広く共有するとともに、所外の職員の方にも理解を深めていただくよい機会となりました。



演題名	発表者名
名古屋市におけるヘルパンギーナの発生動向について	疫学情報部 濱崎 哲郎
結核菌分子疫学検査事業について	微生物部 三木 卓也
食品中の添加物分析法開発事業と食品部の取り組みについて	食品部 勝原 美紀
衛生動物ウェブサイトとアクセス解析	生活環境部 横井 寛昭

(疫学情報部 内田 利光)



◆ 編集・発行 名古屋市衛生研究所 〒463-8585 名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地
TEL : 052-737-3711 / FAX : 052-736-1102 E-Mail : a7373711-01@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp
URL : <https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-0-0-0-0-0-0-0.html>